

競技運営規程

1 大会運営

本大会は、(公社)日本ホッケー協会発行の「ホッケー競技運営規程」(2013年版)並びに全国高等学校ホッケー選手権大会実施要項により運営される。もしもその解釈等に疑義が生じた場合はあくまでも「ホッケー競技運営規程」本文にしたがって解決を図るものとする。

2 競技規定

競技規定は、(公社)日本ホッケー協会「ホッケー競技運営規程」(2013年版)による。

3 試合時間

試合時間は、前半 35 分・後半 35 分の計 70 分とし、前後半の間に 10 分間のハーフタイムをおく。

4 時間の管理

試合時間は、ジャッジが管理する。ただし、前後半終了間際に与えられたペナルティ・コーナーは、規定の試合時間が終了しても中止されることなく、それが完了するまで続けられ、終了した時は審判員のホイッスルをもって規定時間の終了となる。

5 勝敗の決定方法

上記規定時間内に勝敗が決しない時は、下記の方法により勝敗を決定する。

(1) 準々決勝戦までの場合

6に定める方法によりシュートアウト戦(SO戦)を行い、勝敗を決定する。

(2) 準決勝戦と決勝戦の場合

10分間の休憩後、あらためてサイド(又はボール保持)を決め直して、延長戦を行う。時間は、各7分30秒よりなる2ピリオドとし、2ピリオドの間にサイドをチェンジするが、休憩時間はおかない。この延長戦は、いずれかのチームが得点した時点で終了する。延長戦の結果なお勝敗が決しないときは、6に定める方法により、SO戦を行い、勝敗を決定する。

6 シュートアウト(SO)戦による決定方法

(1) 両チームの監督は、5名の選手と攻撃を行う順番ならびに守備を行う1名を競技役員(TO)に伝える。(選ばれる選手は、レッドカードによる退場処分を受けた者を除いた出場登録済みの者)

(2) 両チームの5名の選手が交互に攻防を一巡行い、得点の多い方を勝者とする。なお、途中で勝敗が決したときは打ち切る。(この際選手がプレー不可能になった場合は、退場処分となっている選手以外の公式試合記録に登録されている選手の中から交代できる。)

(3) 最初のSO戦において勝敗が決しない時は、再SO戦をサドンデス方式で行う。最初先攻のチームが後攻となる。(各チームのメンバーは、プレー不可能な者を除き、最初と同じメンバーで行う。ただし、順序は変えてもよい)

(4) ベンチ入りが認められている者は、23mエリア外のフィールドに入ることができる。

7 競技フィールド内への立ち入り

(1) 試合に直接関与する22名の選手と2名の審判員の他は、たとえ誰であろうとも審判員の許可がない限りフィールド内に立ち入ることはできない。

(2) 試合中、選手に怪我等が起こった場合、あらかじめ決められた2名以内の者が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入り、手当てを行うことができる。

(3) 各チームは、エントリーフォームに、フィールド内に立ち入る2名の者を、記載しておかなければならない。

- (4) 飲料水の補給等は、フィールド内で行ってはならない。
- (5) 試合が行われていない時であっても、ジャッジの許可を得なければ、空いているフィールド内に立ち入ることはできない。

8 選手の交代

- (1) 選手の交代は、その試合にエントリーされていれば、随時交代することができる。ただし、ペナルティ・コーナーが与えられている間は、負傷した守備側のゴールキーパーの特権を持つプレーヤーの他は誰も交代することができない。
- (2) 交代は、ジャッジ席にその意を伝えた後、ジャッジ席前のセンターライン付近(ジャッジ席から3メートル以内)で行う。
- (3) ゴールキーパーの交代は、審判員の管理の下で、試合時間を一時停止して行う。

9 給水タイムについて

- (1) 暑熱下(気温 28℃以上)の試合において、前・後半それぞれの半分(17~20 分頃)を経過した頃に審判員の合図により給水タイムをとることができる。この場合給水のみ速やかに行う。また、大会期間中及び試合中の天候の変化によっては、試合開始前、ハーフタイムに変更することもある。
- (2) 給水タイム中のコーチングは、その目的に反するのではしてはならない。これに違反した場合は、カード等の罰則が与えられる。
- (3) 給水タイムの実施については、大会TDが判断する。

10 シューズについて

人工芝……人工芝用シューズのみ認める。

11 その他

- (1) 試合中、審判員に対する誹謗・乱暴なプレー・スポーツマンシップにふさわしくない行為は厳に戒める。
- (2) 出場チームは、試合開始 30 分前までに監督署名済みのエントリーフォームを2部提出する。
- (3) 出場チームが定刻までに参集しない時は、棄権したものとみなし相手の不戦勝とする。
- (4) 試合時間8分前に、リングパス並びに服装・装具等の点検を行う。
- (5) 選手は、試合中を通じてシャツの裾をきちんと処理(パンツ・スカートの中に入れる)しストッキングは脛当てを覆うようにして膝下まで上げて履くこと。
尚、スパッツはパンツ又はスカートと、アンダーシャツはシャツと同色でなければならない。
- (6) 各チームの選手は、正規の背番号をつけ、大会期間中は変更できない。
- (7) ベンチは、組み合わせ番号の若い方が、コート内からジャッジ席に向かい右側のテントを使用する。監督はベンチに在る全ての言動について全責任を負うものとし、ジャッジ席に近い側に位置しなければならない。また、試合中控選手もベンチに着席していること。さらに、ベンチには、エントリーされた者以外は入ることができない。ただし、当該校の登録完了しているコーチ・フィジオセラピスト・校長はこの限りではない。
- (8) チームの主将は、キャプテンマークを必ずつけること。
- (9) リボン・ハチマキは、競技に支障のない範囲で使用してよい。(ピアス・ヘアピン等は禁止)
- (10) 負傷・出血した選手は直ちに退場し、止血処理・傷の手当・洗浄が完了するまでは再出場することができない。(血のついた衣類は交換し、用具等も洗浄しなければならない)
- (11) 競技フィールドには、2種類のユニフォームを準備し、さらに番号を貼り付けられるようにした番号なしの予備ユニフォーム2着を用意しておくこと。
- (12) 試合終了後、両チームの監督はジャッジ席で公式記録用紙に署名すること。
- (13) 高校生の大会においては、抗議の申し入れはできない。
- (14) 競技運営に関する疑義が生じた場合は、大会競技委員長が決定する。